



阪神・淡路大震災 25 年総合フォーラム 総括メッセージ

24 年前のあの日、未曾有の被害を生じさせ、当時の社会に大きな衝撃を与えた阪神・淡路大震災。あの震災は、我が国の防災・減災対策を根本的に変革させる転換点となりました。

一方で、震災から 25 年を迎えようとする中、激震地・兵庫でも、震災を経験していない世代が社会の中核を担いつつある状況も生じてきています。また、最近の災害において、初動対応の混乱をはじめ、避難所や仮設住宅での生活支援など、阪神・淡路大震災で学んだはずの教訓が十分に活かされていない状況も見受けられます。

このような中、「震災を風化させない—『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」を基本コンセプトとして、本日開催されたこのフォーラムに集った私たちは、震災の経験・教訓の継承と更なる活用の重要性や課題について改めて認識しました。

特に、このフォーラムでは、震災を経験していないにもかかわらず、高い意識をもって小学校への防災出前授業等に積極的に取り組む若者世代の存在に、将来への大きな希望を見いだすことができました。

また、学生・自主防災リーダー・被災企業の経営者の間に新たな連携が生まれるとともに、震災の経験を胸に全国的に活躍している著名人と想いを共有する機会となるなど、世代や分野を超えたつながりに新しい展開が生まれたことは、このフォーラムの大きな成果といえるでしょう。

「震災を風化させない」とは、単に震災の記憶・経験を忘れずに伝えていくことだけではありません。震災で学んだ教訓を活かし、次なる災害に備えられてこそ、その趣旨を全うできるものと考えます。

私たちは、「震災の経験・教訓を忘れずにしっかりと伝え、次なる災害に活かし備える」決意を新たにし、これからも、その実践を通じて、安全安心な社会の実現を目指します。

令和元年 6 月 30 日

阪神・淡路大震災 25 年総合フォーラム参加者一同

